

# 身のまわりで起っている色々な問題について

## 1 ある日の出来事

「うわさ」って〜

休日、私は弟とスーパーへ買い物に出かけた。その翌日、会社に行くところ、もうすぐ結婚？」「よかつたね、あめでどう！」「という声。」「結婚って何？」「戸惑っている私に、先輩が言いました。「ほら、昨日、スーパーで恋人と楽しそうに買い物してただろ？」「私は慌てて「あれは弟よ。」と説明した。でも、うわさはどこまで広がっているんだろう…。思い込みでうわさするのは、本当にやめてほしいわ。

その後、何気なく週刊誌をめくっていると、先日から話題になっている大きな事件の記事を見つけた。そこには、事件が起こった原因や被害者のことがおもしろおかしく書かれている。「これだっ、本当のことじゃないかもしれないな。」「私も今までうわさやゴシップ記事を楽しんでいたけど、こういうことが、いろんな人権問題を生んでいくことにもなるんじゃないかしら。

## 2 私たちのまわりではその他、どのような人権問題があるのでしょうか

### 刑を終えて出所した人等の入権

刑を終えて出所した人やその家族に対しては、根強い差別意識があり、本人に更生の意欲があっても、就職や住居の確保の際に差別されるなど、現実には極めて厳しい状況です。刑を終えて出所した人

等が社会の一員として生活できるためには、地域社会の理解と協力が不可欠です。

### アイヌの人々の入権

北海道などに先住し、豊かで独自の伝統や文化を持つアイヌの人々は、明治以降の同化政策の中で、民族としての誇りを奪われることになりました。今でも、アイヌの人々に対する理解が十分ではないため、差別されることがあります。アイヌの伝統等についての知識を持ち、民族や文化の違いに対する寛容さを育むことが必要です。

### 性的指向に係る入権問題、性同一性障がい

同性愛などの「性的指向」や、体の性と心の性との食い違いにより、社会的に支障をきたす「性同一性障がい」に対する偏見があります。性のあり方を固定的に判断し、少数派を特別視するのではなく、多様性を認める柔軟な考え方をもち、理解を深めて行くことが必要です。

### インターネットによる入権侵害

今、インターネット上での「プライバシーの暴露」や「差別表現の書き込み」など、入権を無視した行為が大きな問題となっています。インターネット上では自分の顔や名前を知られずに発言できますが、何でも許されるものではありません。インターネット上でも、日常生活と同様、ルールやマナー、そして入権を守ることが必要です。

### ホームレスの問題

様々な理由から、ホームレスになることを余儀なくされている人たちがいます。その状況にわかかわらず、見た目などで判断され、嫌がらせや暴行事件などがたびたび発生しています。その生活を営まざるを得なかった理由に目を向け、その苦しみを理解し、自立に向けた支援を行うことが必要です。

### 北朝鮮拉致問題に伴う入権問題

北朝鮮当局による日本人の拉致は国家による犯罪行為であり、重大な入権侵害です。平成16年7月までに一部の拉致被害者とその家族の帰国が実現しましたが、未だ、真相解明等に向けた交渉が続いており、一日も早い解決が求められています。また、平成18年6月に「拉致問題その他北朝鮮当局による入権侵害問題への対処に関する法律」が制定されました。私たちは、この問題が入権侵害であるという認識を深めるとともに、直接関係のない在日朝鮮人の人々に対する嫌がらせなどの新たな入権侵害を起こさないようにする必要があります。

### 水俣病をめぐる入権

水俣病は、工場排水中のメチル水銀に汚染された魚介類を、そうとは知らずにたくさん食べたことが原因となって発生した病気です。昭和31年に水俣病が公式確認されて以来、半世紀が経過しましたが、多くの人が健康被害に苦しみ、これに加えて、地域の内外で、いわれない偏見や差別の問題が生じました。

### ① 集落内での差別

原因がまだはつきりしなかった頃、水俣病は伝染するという誤解による差別などを懸念して患者を家の中に隠しました。また、患者が出たとわかれると、その家には人々が寄りつかなくなったり、様々なやがらせをするなどのひどい差別がありました。

### ② 地域内での差別

原因企業であるチッソに大きく依存していた水俣ではチッソを擁護する人も多く、患者やその家族はチッソと対立する存在として差別や抑圧・忌避を受けるなど住民間の対立が深まり、地域の絆まで壊れてしまいました。

### ③ 地域外からの差別

水俣出身であるために、結婚や就職を断られることもありました。また、水俣の産品が地域外では売れず、観光客も激減するなど、地域全体が、いわれない偏見や差別に苦しみました。

近年、対立していた住民等が一緒になつて地域を再生していくために、人々の絆を取り戻す「もやい直し」が進んでいます。

私たちは、水俣病問題から得た多くの教訓をもとに、水俣病について正しい知識・認識を持ち、偏見や差別をなくしていくとともに人の命や健康、環境がいかに大切であるかを改めて認識しましょう。

(熊本県入権センター)

「くらしと入権」より

益城町教育委員会